

2019年5月



桃寿苑

だより

1日 (水)	(天皇の即位の日)	アッピー	16日 (木)	誕生会	
2日 (木)	(国民の休日)		17日 (金)	検尿	
3日 (金)	(憲法記念日)	(菖蒲湯)	18日 (土)		
4日 (土)	(みどりの日)	(菖蒲湯)	19日 (日)		
5日 (日)	(こどもの日) 端午の節句		20日 (月)	レントゲン14時～	
6日 (月)	(振替休日) 理髪日		21日 (火)		
7日 (火)			22日 (水)		アッピー コーラス
8日 (水)		アッピー コーラス	23日 (木)		レク
9日 (木)	健診13時～		24日 (金)	血圧検温 診察日	
10日 (金)	血圧体重・診察日 母の日会食		25日 (土)		
11日 (土)			26日 (日)		
12日 (日)			27日 (月)	ホーム喫茶	
13日 (月)	苑内掃除		28日 (火)		アッピー カラオケ
14日 (火)			29日 (水)		
15日 (水)		アッピー	30日 (木)	避難訓練	
			31日 (金)		

散歩道

施設長 坂巻 政美(まさよし)

平成が終わり、元号が令和となりました。どんな世の中になっていくのでしょうか。今年の桜は満開が遅く、寒い日も多かったのもそれなりに楽しめたのではないのでしょうか。4月27日から10日間の連休が始まりました。桃寿苑では、休みの日は職員の数が少なく、ご迷惑をかけないように致しますが、ご協力よろしくお願いたします。

千鳥ヶ淵方面の様子



皇居乾通り一般公開が平成31年3月30日(土)から4月7日(日)までの9日間実施されていました。ちょうど初日に池袋に用事があり、桜のきれいな所を探していると、皇居のお堀がいいということになりました。お昼過ぎに行ってみると、皇居が一般公開されていたので、初めて皇居の中に入ってみました。坂下門から乾門に出るコースです。入る前に、人の渋滞が少しありました。その後、荷物検査、終わったと思ったら次に身体検査。金属探知の棒で体を調べられました。いたるところに警察?と宮内庁職員の姿が。期待したほど、公開されているところには大きな幹の桜がなく、桃寿苑の桜の木のほうが立派な気がします。初めて入った皇居は昔の面影を残しており、興味津々。宮殿を遠くから眺めましたが、そんな所もあるんだなという感じでした。桜を見るより、全体の様子をゆっくり見てきました。短時間でしたが満足できました。乾門を出て、千鳥ヶ淵方面に歩いていくと、そこには桜が満開状態できれいに咲いていました。皇居の中も外も、日本人より外国人のほうが多かったように感じました。自然がたくさん残された皇居のほんの一部を見てきましたが、機会があったらまた季節を変えて行きたいと思います。



宮殿を遠くから

5月行事予定

端午の節句

日 時・・・5月5日(日)
昼食時、柏餅が出ます。
持ち帰りは禁止です。食堂で食べて下さい！



母の日

日 時・・・5月10日(金) 昼食時
女性の方にお花のプレゼントがあります。
お昼も豪華に散らし寿司！！



お母さん
ありがとう～

レントゲン

日 時・・・5月20日(月) 14:00～
放送でお呼びしますので、居室でお待ち下さい。
ネックレス等の金属・湿布は必ず取って下さい。
ボタンのないシャツでお越し下さい。



今月のお誕生者

8日	25日
11日 本山 政男 さん	
13日 石塚 俊起 さん	5日 松本 美代子 さん(職員)
21日 さん	27日 坂巻 政美 さん(苑長)

おめでとうございます

<医務室より>

- ・ 春の健康診断 日 時・・・5月 9日(木)
※午後1:00に食堂へお越しください。
- ・ 検尿 日 時・・・5月17日(金)
※午前7:00より医務室に置いてください。

新しく、仲尾次 政紀さん(4月10日)
さん(4月15日)
入居されました。皆さん宜しくお願ひします。



<端午の節句の意味と由来は？>

5月5日は国民の祝日の一つである「こどもの日」です。

「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する」ことを趣旨とし、1948年に制定されました。それ以前は「端午の節句」と呼ぶことが一般的でした。「端午」の語源ですが、「端」は物のはし、つまり始まりという意味があり、もともとは月の最初の「午（十二支のひとつ）」の日を節句として祝っていたのですが、その後、旧暦の5月が午の月にあたることと「午」は「五」と読めることや縁起のいい陽数が重なることなどから、5月5日が端午の節句となったのです。

もともと端午の節句は中国の風習でした。中国では旧暦の5月は病気が流行しやすかったことから「5月は悪月」と言われていました。5月の中でも5日は「5が重なるから悪月の悪日」とされ、厄除けのために菖蒲（しょうぶ）や蓬（よもぎ）を門に挿し、菖蒲を浸したお酒を飲んで厄除けや健康祈願をしていました。この風習が奈良時代に日本に伝わってきました。鎌倉時代になると、武道を重んじるという意味のある「尚武（しょうぶ）」と、厄除けに使っている「菖蒲」が同じ読み方であることから武士の間では縁起が良いと盛んに行われるようになりました。江戸時代になると幕府が年中行事として定め、庶民にも広まっていきます。端午の節句は、江戸時代には男の子の誕生と成長を祝う節句として定着します。

なぜ柏餅、粽（ちまき）をたべるのでしょうか。

柏餅は日本独特の習慣で、柏が使われています。柏の木は古くから神が宿る木といわれており、新芽が出て育つまで古い葉が落ちないことから「子どもが成長するまで父母は亡くならない」とされ「跡継ぎが絶えない」、「子孫繁栄」を象徴し、端午の節句の縁起の良い食べ物となったようです。

粽は端午の節句と共に中国から伝わったものです。中国の故事が由来とされ、国王の側近としてつかえていた屈原（くつげん・中国の詩人）はその正義感と国を思う強さで人々から大変慕われていましたが、陰謀によって国を追われ、川に身を投げてしまいます。身を投げた日が5月5日といわれています。屈原の死を悲しんだ人々が5月5日に竹筒に米を入れ、それを川に投げ入れて弔いましたが、屈原の手元に届く前に龍に取られてしまいました。そこで龍が苦手になっている楝樹（れんじゅ）という葉で米を包み、邪気を払う五色の糸で縛って川へ流すようにしたところ、無事に屈原に届くようになったそうです。五色の糸は、魔除けの意味が込められ、鯉のぼりの吹き流しの色に反映されています。

(発行)

〒362-0016 埼玉県上尾市原新町27-1

社会福祉法人 たてば友愛会

軽費老人ホーム 桃寿苑

☎ (048) 775-1101

